

様式第1号（第6条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第3回坂戸市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和6年11月15日（金） 午前10時00分 開会 午前11時30分 閉会
開 催 場 所	坂戸市役所303，304会議室
議長（委員長・ 会長）の氏名	竹下 玲
出席者（委員） の氏名・出席者数	土田 典子、大塚 早苗、田島美代子、島田 隆、竹下 玲 西村 早苗、本間 絹江、安川 光、高橋 智子、吉川 和美 小川 君子、吉田 由加理 計12名
欠席者（委員） の氏名・欠席者数	有光 博、酒井 誠 計2名
事務局職員の 職・氏名	こども健康部長 井上 晋 こども健康部次長兼こども支援課長 三谷 良昭 こども健康部副参与兼市民健康センター所長 有田 さおり こども健康部保育課長 加賀谷 順子 教育委員会事務局社会教育課長 菅野 則之 こども支援課 戸谷課長補佐、前川課長補佐、森田課長補佐 藤島係長、石川主任 保育課 関口課長補佐、藤本係長 市民健康センター 栗田係長
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 坂戸市こどもまんなか計画（仮称）（素案）について （1）第1章から第4章 （2）第5章から第6章 4 その他 5 閉 会

配 布 資 料	配布資料 (1) 令和6年度第3回坂戸市児童福祉審議会次第 (2) 坂戸市児童福祉審議会委員名簿 (3) 令和6年度第3回坂戸市児童福祉審議会事務局名簿 (4) 坂戸市こどもまんなか計画（仮称）（素案） (5) こども・若者アンケート調査調査結果報告書 (6) 坂戸市こども計画の策定スケジュールについて
---------	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
進行（事務局）	1 開会
	2 挨拶
進行（会長）	3 議事
	坂戸市こどもまんなか計画（仮称）（素案）について （1）第1章から第4章
事務局	配布資料（4）に基づき説明。
（質問）	
委員	74 ページから 76 ページにかけての指標について、令和6年度の最も低い現状値 26.7%に 15%加算し、目標値の設定をしたとのことであるが、目標値の増加率 15%とはどのように割り出したのか。
事務局	15%程度の達成率であれば、行政だけでなく、関係機関の努力からも可能であるとの想定から割り出している。現状値が高い場合には、目標値を上げる事が難しいために、逆に増加率を少しずつ減らしている場合もある。
委員	年度ごとの上昇率を把握しないと達成は難しく、達成度の推移と上昇率を表記すべき。例えば食事であれば、質の良い食事を摂ることは難しく、適正体重の市民を増やすことが目標でも、現状は体重増加を食い止めることが精いっぱい、最終評価はどうしても低くなる。そのため、目標値の設定は重要だと思う。
事務局	初めて作る計画のため、過去の上昇率を分析することができない。こども・若者アンケート調査を初めて行ったため、時系列でみておらず、どの数字が正しいのか判断できていない。他計画の指標を参考にしながら設定しているが、その数値の最終評価が下がっていた場合には改めて考え直す必要がある。
委員	指標の比較データがないという事か。

委員	不登校児童・生徒の推移で、令和4年度の小学生16人が、令和5年度では52人と倍以上に不登校のこどもが増えているが、どういう理由か。
事務局	令和4年度から令和5年度にかけて不登校児童や生徒の捉え方が変わったことと、コロナが解消しても登校させたくないという家庭もあることから、不登校児が増加している。
委員	児童虐待の通報件数は、令和4年から増加傾向にあるが、要保護児童対策地域協議会における取扱いケースが減少しているのはなぜか。
事務局	児童虐待の通報件数については、緊急性のないものも含めて様々な問い合わせや通報などにより、件数が増えている。その一方で、ケース対応については、所管課やこども家庭センターで問題解決等、対応していることから協議会への計上件数が減少する年もある。
会長	先ほどの目標値の説明について追加の質問はないか。
事務局	目標を立てるにあたり達成率50%は欲しいところであるが、現状値の26.7%にかけ離れた目標値を立てるわけにもいかないために15%くらいのアップが現実的との結論になった。
委員	現状値から割出しているので目標値が低いからといって問題ではないが、「こどもや子育てに悩みがない保護者の割合」の現状値26.7%は上昇するか。子育ての悩みは尽きないので、達成は難しいか。「自分では解決できない悩み」など、悩みの程度を入れないと解決できないのではないか。
会長	悩みの種類を具体的に追加するとすれば、指標自体が誤解を生みやすくなると思われる。
事務局	子育ての悩みがなくなる事は、100%とはならない指標だと思うが、最近の行政計画の策定においては数値目標を記載することが一般的であり、一旦はこのような数値目標を入れて改定の時の参考にするように考えたい。
委員	指標の文言をもっとわかりやすい表現にする事はできないか。

委員	指標のもととなるアンケートの設問内容によって意味が違ってくるため、アンケートの設問内容が明確になるような指標の表記にすべき。
会長	この指標は54 ページの一般調査の「子育ての悩み」の調査結果をもとに文言を作ったということか。
事務局	そのとおり、アンケート調査では「子育ての悩みがない」の回答が 26.7% となっている。
事務局	設問にある「子育ての悩み」を「深刻な悩み」と受け止めている方が多かったのかもしれない。
委員	指標の文言の「悩みがない」に「深刻な」を加筆するのはどうか。
事務局	指標の表記を「子育てについて深刻な悩みがない」に変更するか検討させていただく。
委員	26.7%は、参考値と捉えるべきではないか。子育ての悩みの数値と深刻な子育ての悩みの数値を比べた時、意味合いによって数値が変わってくる。深刻な悩みを目標値に置いて、現状値（参考値）として、調査結果による理由を加筆すべき。
会長	現状値では正確でないので、カッコ書きで脚注をつけるということか。
委員	そのようにしておく、と比較判断がしやすいと思われる。
事務局	指標の表現を参考値に修正する。
	(2) 第5章から第6章
事務局	配布資料（4）に基づき説明
(質問)	
委員	98 ページ(3)の0歳児と1・2歳児の量の見込みと確保方策では「実際には

	希望する児童がすべて入所できている」と説明がなされたが、令和5年度実績では過不足が▲73で「状況」は不足となっており、どちらが正しいのか。
事務局	確保方策の数値は保育園の定員数だが、一方で、国の待機児童政策による「保育の弾力化」という制度があり、実際には定員数以上に受け入れをしている。保育需要に応じて受け入れを変更できる制度であるが、保育需要はその年度の児童数でも変わり、マンション建設などによる移動状況でも変わるため、令和6年4月現在では120名の0歳児の受け入れ枠に対して半数60名の空き状況があり、提供体制は確保されている。
委員	データだけを見ると、坂戸市は待機児童数が多いと勘違いされないか。ホームページで公表した場合には、坂戸市の保育所を希望する0歳児～2歳児の保護者が勘違いするため、説明書きを加えるべき。
事務局	検討する。
委員	102ページの(5)放課後児童クラブについて、クラブ増設と空き教室の活用について記載されているが、前計画から大幅な差異が発生しているので、この数値は試算上でどのような点を考慮した数値なのか。
事務局	前回の計画では量の見込みが少なく実数より差があった状況だが、児童生徒数が年々減少する一方で学童保育所の需要が増えているため、入所上昇率を見込まないと実数から離れてしまうということから、今回は、学童の利用数に近づけるためにも住民基本台帳をもとに児童数を学区ごとに分けて、平成30年からの5年間の各学年の生徒数に学童の利用率を掛けて細かく計算したところ、指定管理運営者が提出した数字とほぼ一致したので、これから先は令和11年に向かってかなり実数に近づいたと考える。確保方策については、7～8年にかけて+30で8～9年にかけて+30とあるので、担当課と相談したところ、クラブ増設と空き教室の利活用を重点にしたいと考えている。
委員	109ページ、児童育成支援事業が創設されるという事で、PTA内でこどもの登校の行きしぶりや不登校児の保護者の話を聞いたところ、特別な支援が必要な子どもだったりすると父親は事実を認めたくなく、母親が1人で抱え込むケースが多いため不登校は子どもだけの問題ではなく、家庭全体の問題に

	なっていると感じるので、事業を開始によってそのような家庭内の問題にも手が届くと良いと思う。
事務局	不登校のこどもも増えてきていることについては認識しており、こども支援課と教育委員会学校部門と連携しながら対応を検討している。学校でも不登校の児童・生徒のためのスペースの確保や教育センターにも特別な居場所を設けているのでどのように連携できるのかを引き続き協議したい。
委員	その支援については、どのような場所を検討しているか。話を聞いてあげるだけでも母親は楽になるので、県の家庭教育アドバイザーが坂戸市にもいるので、市の支援でも使っていただきたい。
事務局	個々の相談や学校を通じての保護者の相談は、家庭児童相談室で対応している。こどもの居場所に関しては、地域の拠点になっている交流センターなどを検討しているが、国が意図する食事や入浴も可能なナイトケア（家庭での支援が受けられないこどもの居場所）などについては、これからの検討になる。
委員	精神疾病を抱える母親が相談に訪れても本音を話さず帰宅後さらに問題が悪化するというケースもあり、ゆっくりと対面して話を聴ける場所が必要となる。是非家庭教育アドバイザーが市内にもいる事を覚えていただきたい。
事務局	行政だけでは賄いきれない包括的な支援になると思うので、ご協力いただきたい。
会長	本計画の名称の件ですが、「こどもまんなか計画」と仮称になっていますが、ご意見はありませんか。
委員	(異議なし)
会長	本計画の名称を「こどもまんなか計画」とする。ひと通り素案に対するご意見が出たと思うので、誤字脱字と軽微な修正などの対応は事務局一任とさせていただきたいと思うが。よろしいか。
委員	(異議なし)

事務局	4 その他 配布資料（５）に基づき、こども・若者アンケート調査調査結果報告書について説明 （意見なし）
事務局	配布資料（６）に基づき、坂戸市こども計画の策定スケジュールについて説明 （意見なし） 5 閉会